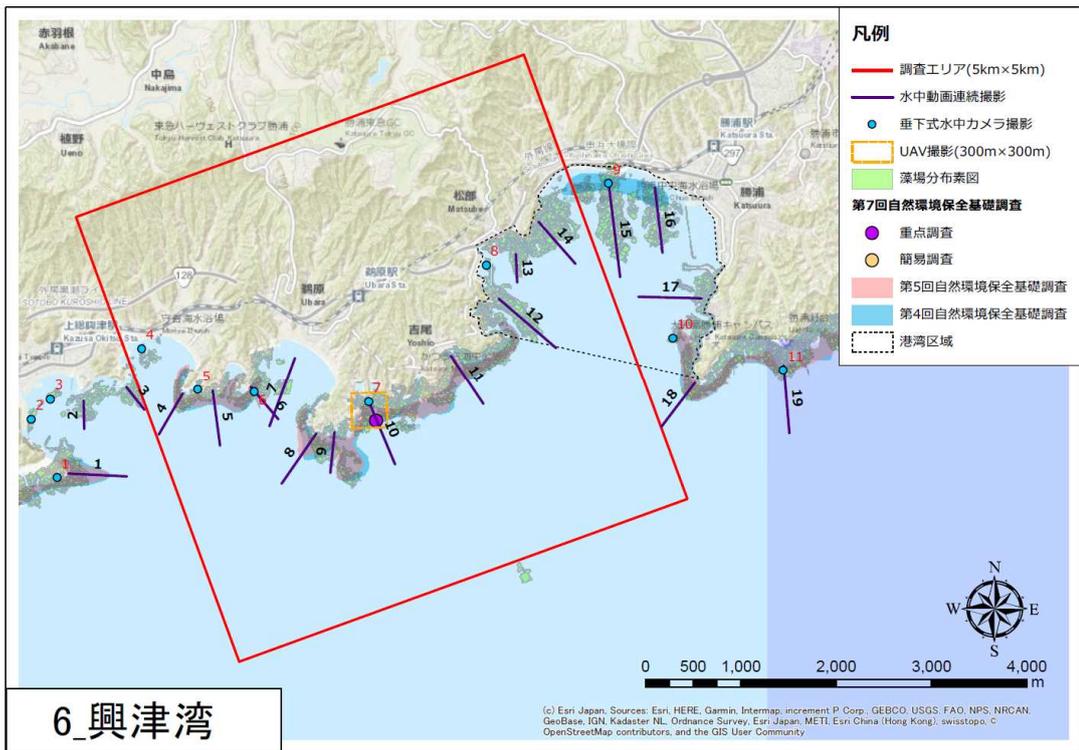


(1) 調査海域名	中部太平洋沿岸海区 興津湾
(2) 調査海域の所在	千葉県勝浦市興津湾周辺
(3) 調査海域及び調査位置図	



(4) 調査位置の詳細 (JGD2011)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果 (データ)」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン番号	岸側基点		沖側基点		測線距離 (m)
	緯度	経度	緯度	経度	
1	-	-	-	-	507
2	-	-	-	-	247
3	-	-	-	-	251
4	-	-	-	-	410
5	-	-	-	-	479
6	-	-	-	-	368
7	-	-	-	-	633
8	-	-	-	-	523
9	-	-	-	-	349
10	-	-	-	-	582
11	-	-	-	-	503
12	-	-	-	-	650
13	-	-	-	-	247
14	-	-	-	-	482
15	-	-	-	-	811
16	-	-	-	-	568
17	-	-	-	-	543
18	-	-	-	-	479
19	-	-	-	-	591
総測線距離					9,222

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-
11	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影）】

調査地点	緯度		経度	
A	-	-	-	-
B	-	-	-	-
C	-	-	-	-
D	-	-	-	-

(5) 調査年月日 令和元年 7 月 9 日、10 日

(6) 調査者 三洋テクノマリン株式会社 代表：北野慎容

(7) 調査海域の概要

岩礁域ではアラメ・カジメを中心とする海藻群落が生育する。内湾の砂泥域ではアマモ群落が生育する海域である。ホンダワラ類では、ジョロモクやオオバグサ、オオバノコギリモク、アカモク等が生育する。小型海藻ではアオサ属やフクロノリ、ウミウチワ、ツノマタ、ヒラキントキ等がみられ、無節サンゴモの付着も認められる。

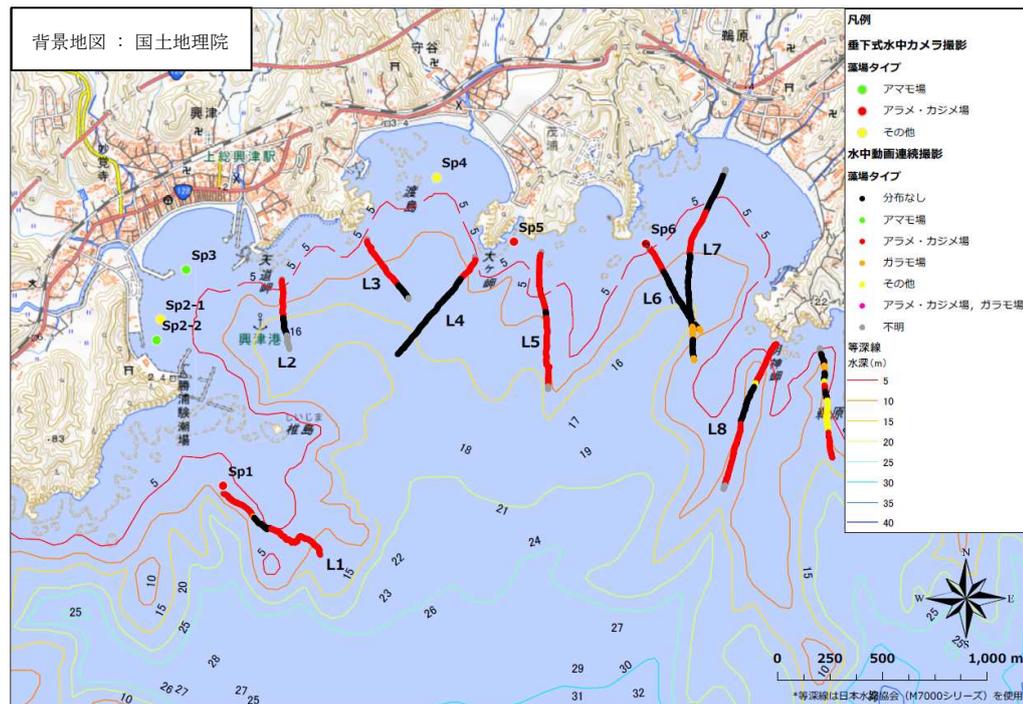
岩礁域では、比較的浅い水深 1.0~2.0 m の範囲にアラメが、水深 2.0 m 前後でアラメとカジメが混生、それ以深ではカジメが群生する。

年間平均風速は 8.0 m/s を以上であり、洋上風力施設設定可能な海域（極浅海域・砂質域）が近隣に存在する。

《参考》第 7 回自然環境保全基礎調査；中山ら（2001），興津湾における広域海藻分布と水理環境に関する現地調査，海岸工学論文集，48 巻，1161-1165

(8) 調査結果

【水中動画連続撮影】○測線 1~7 の状況



測線 1 の状況：水深約 10～22 m で、岩盤を主体とする測線であった。測線全体でカジメ（最大被度 70%）がみられた。その他の海藻としては、水深約 10～21m の岩礁域において、ホンダワラ類（被度 5%未満～30%）がみられた。

測線 2 の状況：水深約 6～18 m で、岩礁を主体とする測線であった。水深 15m まではカジメ（被度 70～80%）がみられ、それ以深は砂質域に岩盤が混じり、海藻草類はみられなかった。

測線 3 の状況：水深約 7～13 m で、岸よりは岩礁、沖合では砂質域となる測線であった。岩礁上にはカジメ（被度 30～60%）でみられた。砂質域には海藻草類はみられなかった。

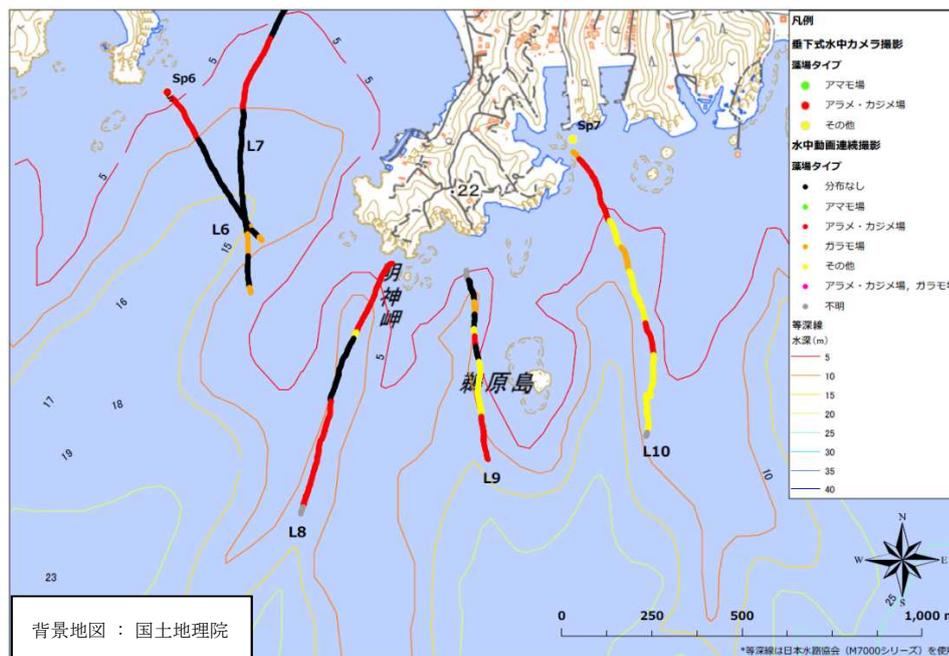
測線 4 の状況：水深約 8～16 m で、岸よりは岩礁、沖合では砂質域となる測線であった。水深約 8～12 m でカジメ（被度 20～60%）がみられ、その他の海藻としてホンダワラ類が混在した。それ以深は、砂質域であり海藻草類はみられなかった。

測線 5 の状況：水深約 7～14 m で、岩盤を主体とする起伏に富んだ測線であった。測線全体でカジメ（被度 5～70%）がみられ、その他にホンダワラ類（被度 5%未満）、紅藻類（テングサ属等：被度 5%未満）の海藻がみられた。

測線 6 の状況：水深約 5～11 m では岩礁であり、カジメ（被度 80%）がみられた。水深約 12～16m 付近では砂質域に点在する転石であり、転石上にはホンダワラ類がみられた。

測線 7 の状況：水深約 3～16 m で、砂質域と岩盤が交互にみられる測線であった。測線の岸よりの水深約 3～5 m では砂質域であり海藻草類はみられなかった。その後、水深約 5～8 m では岩盤となり、カジメ（被度 40～60%）とホンダワラ類の海藻がみられた。水深約 9～16 m は砂質域の一部に岩盤がみられ、岩盤上にはカジメ（被度 5%未満）、ホンダワラ類（被度 5%）、テングサ属（被度 5%未満）の海藻がみられた。

○測線 8～10 の状況

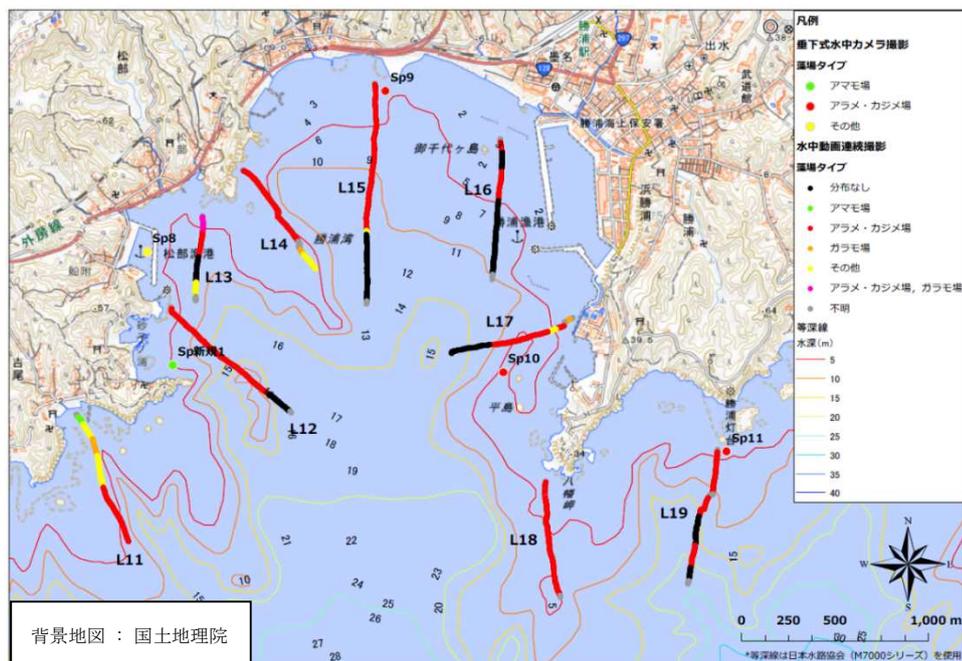


測線 8 の状況：水深約 4～17 m では岩盤が主体となる測線であった。岸よりの水深約 3 m 以浅では、アラメとカジメが混生していた。水深約 8 m 以深では、カジメ（被度度 10～50%）がみられた。その他の海藻としてホンダワラ類（被度 5%未満）、紅藻類（被度 10%）の海藻がみられた。

測線 9 の状況：水深約 7～14 m で、岩盤と砂質域が混在する測線であった。鵜原島周辺の水深約 7～8 m の岩盤には、カジメ（被度 20～30%）がみられた。その他の海藻としてテングサ属（被度 5%未満）が確認された。

測線 10 の状況：水深約 7～20 m で、岩盤が主体の測線であった。水深約 7～19 m では、カジメ（被度 5%未満～80%）がみられた。一部のカジメでは、葉部が消失した個体がみられた。その他の海藻として、ホンダワラ類（被度 5%未満～10%：水深約 7～19 m）、紅藻類（テングサ属等：被度 5%未満～20%）の海藻がみられた。

○測線 11～19 の状況



測線 11 の状況：水深約 4～10 m で、岸よりから沖合にかけて砂質域から岩盤に基質が変化する測線であった。水深約 4 m では、アマモ（被度 10～70%）でみられた。水深 4m 以深は岩盤となり、カジメ（被度 5%未満～80%）、ホンダワラ類（被度 5%未満～20%）、ウミウチワ、紅藻類、緑藻類がみられた。

測線 12 の状況：水深約 3～18 m で、岩盤が主体となる測線であった。水深約 4～17 m ではカジメがみられた。水深 17 m 以深は砂質域となり海藻草類はみられなかった。

測線 13 の状況：水深約 3～9 m で、岩盤を主体とする測線であった。水深約 3 m では、カジメ（被度 30～70%）、ホンダワラ類（被度 10～30%）、ウミウチワがみられた。水深約 8 m 付近では砂質域に岩石が点在するようになったが、海藻草類はほとんどみられなかった。水深約 9 m 付近では岩盤の割合が増加し、岩盤上にはカジメやホンダワラ類が被度 5%未満とわずかにみられた。

測線 14 の状況：水深約 3～15 m で岩盤が主体となる測線であった。水深約 3～14 m と測線の全体でカジメが密生（最大被度 80%）していた。その他の構成種としてホンダワラ類が被度 10%で確認された。水深 15 m 以深になるとカジメはみられなくなり、紅藻類（被度 5%未満）のみがみられるようになった。

測線 15 の状況：水深約 5～12 m では岩盤、12m 以深では砂質となる測線であった。岩盤上にはカジメ（最大被度 70%）がみられた。カジメの周辺にはホンダワラ類が被度 5%未満～10%程度でみられた。沖合の水深 12 m 以深は砂質域では海草は観察されなかった。

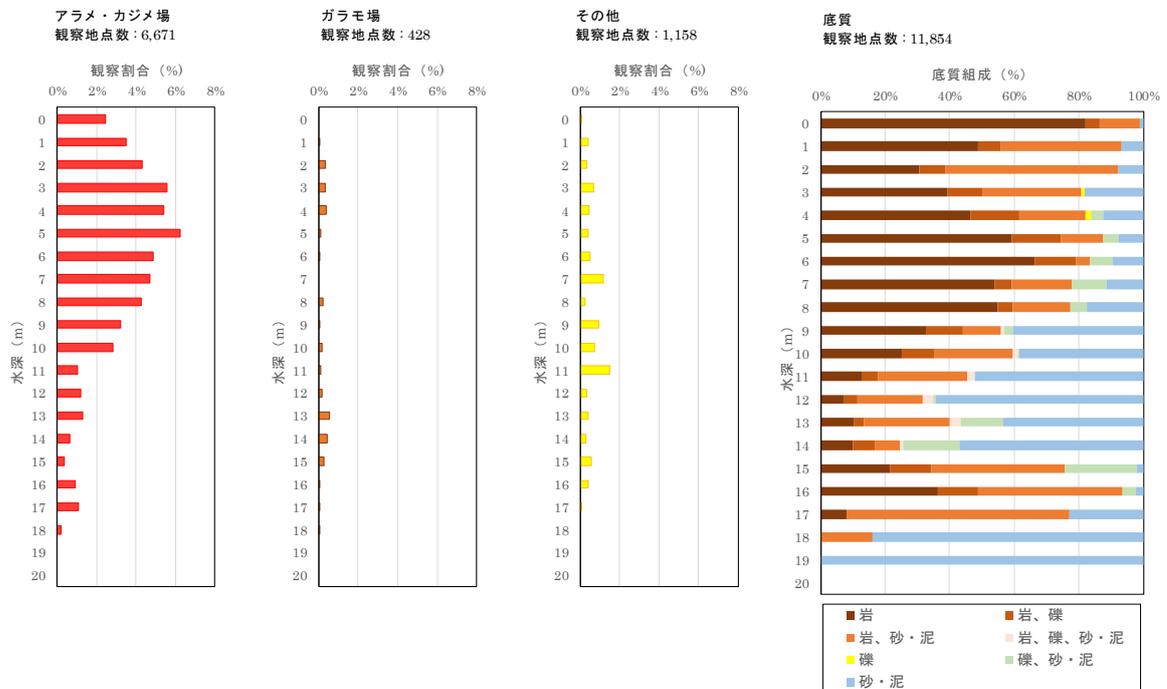
測線 16 の状況：水深約 3～6m では岩盤、6～12m では砂質となる測線であった。岸よりの水深約 3～6 m ではカジメ（被度 10～20%）とホンダワラ類（被度 5%未満）がみられた。水深 6 m 以深の砂質域では、海草はみられなかった。

測線 17 の状況：水深約 5～15 m で岩盤、15 m 以深では砂質域となる測線であった。水深約 5～15 m ではカジメ（最大被度 80%）がみられた。その他の海藻として、ホンダワラ類（5%未満～20%）、紅藻類、ウミウチワがみられた。水深 15 m 以深の砂質域では海草はみられなかった。

測線 18 の状況：水深 2～14 m の岩盤を主体とする測線であった。水深 9 m 以深ではカジメ（被度 30～80%）がみられた。本測線では、葉部が消失したアラメ及びカジメが測線全体でみられた。また、ブダイと思われる魚類がみられ、ブダイによる食害の可能性が考えられた。

測線 19 の状況：水深約 8～22 m で、岩盤と砂質域が交互にみられる測線であった。水深約 8～11 m の岩盤上ではカジメが被度 10～30%でみられ、その他の海藻として、ホンダワラ類やテングサ属がみられた。砂質域では海草は確認されなかった。

【各藻場タイプにおける鉛直頻度分布図】



注：観察割合 = 各藻場タイプが観察された地点数 / 総観察地点数 12,361 地点

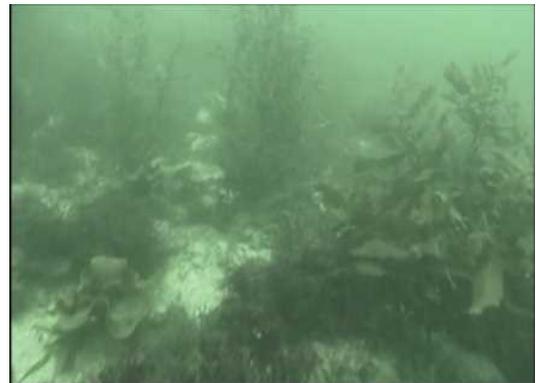
【垂下式水中カメラ撮影】

垂下式水中カメラ撮影の結果は以下のとおりで、離岸堤後背地や入江内の砂質域では、アマモがみられた。岩盤上では、カジメやホンダワラ類、紅藻類（テングサ属、オゴノリ等）の海藻がみられた。

地点番号	水深 (m)	主要な構成種	底質	備考
Sp1	9.8	カジメ 60%、アミジグサ科+	1	-
Sp2-1	6.0	オゴノリ+、アマモ+、ミル属+	4	アマモは局所的に生育
Sp2-2	4.0	アマモ 20%	4	アマモがパッチ状に生育する
Sp3	8.3	アマモ+	4	アマモは局所的に生育
Sp4	3.5	ウミウチワ 10%、カジメ 5%、ホンダワラ類+	1, 4	-
Sp5	4.0	カジメ 60%、オオバモク 10%、テングサ属+	1	-
Sp6	5.2	カジメ 100%	1	-
Sp7	7.3	カジメ 5%、ホンダワラ類+、ウミウチワ 20%	1, 4	-
Sp8	3.7	オゴノリ属 30%	4	港内で観察、浮泥が堆積
Sp9	4.2	カジメ 50%	1	-
Sp10	5.8	カジメ 80%、ヤツマタモク 20%	1, 3	-
Sp11	10.5	カジメ 70%	1	-
Sp 新規 1	2.8	アマモ 60%	4	現地ヒアリングの結果、アマモの分布する海域を追加した



カジメ群落 水深約 5 m



ヤツマタモク 水深 7 m



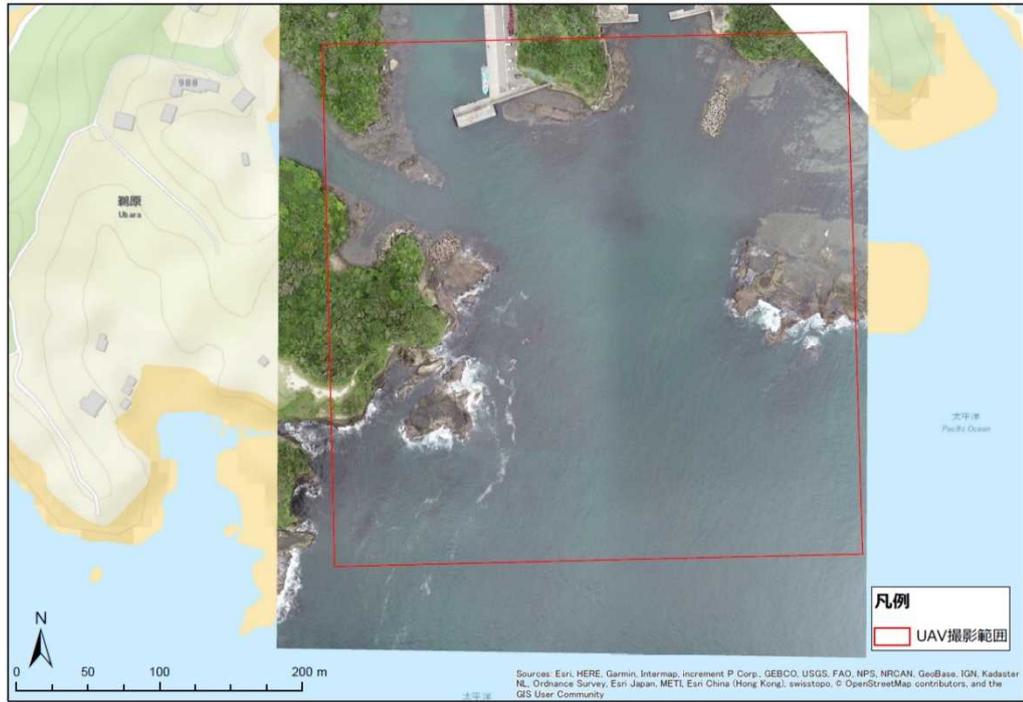
アマモ 水深約 4 m



ブダイと思われる魚影 水深約 9 m

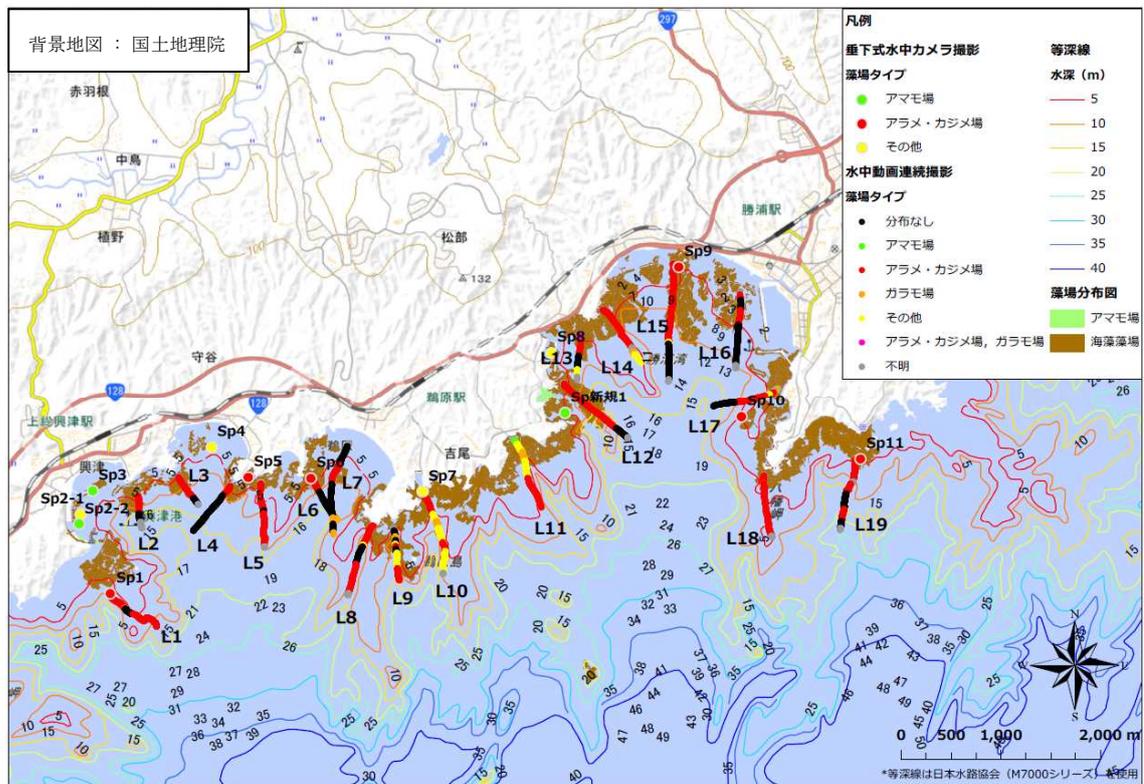
【UAV 撮影】

300m 四方のオーバーラップ撮影の結果、300m 四方全域でオルソ化された。海域の一部では低輝度の藻場らしい影がみられたが、濁りのため明確にはならなかった。



撮影時間	潮位 (m)	風向・風速	波高 (m)	撮影高度 (m)	備考
12 : 21~12 : 30	CDL 1.54 m	NW・2.0 m/s	0.2 m	149 m	-

(9) 藻場分布図



(10) まとめ

岬と入江が連続する興津湾周辺では、岬部では、岸よりは岩礁域であり、沖合は砂質域となる測線が多かった。岩礁域では概ねカジメが確認され、水深約 2 m から最大で水深 15 m までみられ、最大被度は 80% であった。また、明神岬周辺（測線 8）の水深約 1~3 m 付近では、カジメに混生してアラメが確認された。一部、葉部が消失した個体がみられた。水深 15 m 以上の岩礁部ではテングサ属がみられた。

入江部は砂質域であり、離岸堤や入江奥部の静穏な海域の水深約 2~8 m において、アマモが確認された。



アマモの生息場周辺（地点 2）



アマモ（測線 11）



周辺状況（測線 19）



干出する岩礁（測線 1）

(11) その他特記事項

特になし。